

教育と ICT 活用

Education and ICT Utilization Theory

HAYAKAWA Shinichi

早川 信一

科目ナンバリング : UTL-2-311-04



■授業の目的及び到達目標

情報通信技術(ICT)教育の必要性を理解するとともに、学習指導要領等に示されている情報教育の目標、情報通信技術を活用した教育の理論や方法、指導内容と留意点等について理解を深める。また、情報化社会と学校の在り方や新しい社会に対応できる資質能力、基礎力、考え方を修得する。さらに、学校運営や授業等の現場において活用する情報通信技術の具体的な活用方法や取組内容について理解することを到達目標とする。

■授業計画

- 1 情報通信技術(ICT)教育の意義
情報通信技術(ICT)教育の意義と現代社会におけるICTの役割、必要性を学習指導要領や答申等を活用し読み解く。初回は個人のICT活用に対する理解度チェック等を実施し、フィードバックする。
- 2 ICT教育の変遷と展開
ICT教育の歴史的展開を解説し、Society5.0社会におけるICT教育の必要性を理解するとともに、先端技術の活用の意義や情報化の進展に伴い教育に求められているICT教育とは何かを考察する。
- 3 情報セキュリティの理解
ICTを活用する際に、学校生活の中で知識として理解しておかなければならない「情報セキュリティ」について、学生の現状を確認するとともに、実際の学校の現状を紹介しながら理解を深める。
- 4 情報化社会の権利と情報モラルの育成
ICTを活用する際に、知識として理解しておかなければならない「知的財産権・プライバシー、情報モラル等」について、実際の学校の現状を生徒指導などの取組を示しながら理解を深める。
- 5 教員のICTの活用と指導力の育成
各教科、道徳、特別活動、総合的な学習(探究)の時間等が教科横断的に連携して、ICT教育を活用、指導できる情報活用能力の育成方法を探る。ICT人材の育成及び学校での教員研修について「教職課程コアカリキュラム」及び学習指導要領を参考にカリキュラム・マネジメントについて考察する。
- 6 ICTの活用1：探究を支えるリテラシー育成
学校での学習指導・諸活動(知識・理解・技能)におけるICT活用の様々な学習場面を想定して、「数理やデータ」「情報機器の操作及び教材の活用法」などについて解説する。具体的なICTの活用と問題の発見・解決について理解する。
- 7 ICTの活用2：教育実践のためのツール
情報通信ネットワーク、電子黒板、タブレット端末などのICT機器の活用について解説し、いくつかの教科を例に活用する利点や育成すべき資質・能力など効果的な利用方法を理解する。
- 8 授業の基礎的技術とICTを活用した授業
情報伝達やインターネットの配信の仕組み、高等教育におけるICT活用学習、日本におけるICT教育と社会との関係や技術・制度・社会的な意味等を理解する、また、GIGAスクール構想と1人1台端末時代に向けた教育について理解し、遠隔授業をはじめICTを効果的に活用した授業について考察する。
- 9 特別支援教育におけるICTの活用
特別支援教育の進展とICT活用の推進について、障害者がどのようにICTを活用し、コミュニケーションを図るかなど、障害者差別解消法や合理的配慮を考えたICTの活用支援を理解する。
- 10 ICT教育が直面する課題
ICTを活かすための様々な条件を整理し、学校現場での実際の授業展開や課題への対応策を解説する。代表者によるICTを活用した模擬授業の発表(1)を行う。
- 11 現代社会のICT教育への期待と活用
ICTの発展によって生まれる新しい可能性とその問題点を探る。代表者によるICTを活用した模擬授業の発表(2)を行う。
- 12 教育データの活用と学校の情報化
学校で教育活動を遂行させるために様々な業務があるが、この業務(校務)の中で、教育活動の質の向上を図るためにICTをいかに活用するかを検討し、理解する。また、具体的な例を示しながら、教師のデータ活用、校務支援システムとその問題点などを考察する。
- 13 学修のまとめ
ICTを活用した教育の在り方や授業の方法についてまとめを行う。論述を含めた試験を行いフィードバックとして解説を行う。

■授業の方法

知識として伝えるべき内容については講義形式とするが、できるだけ質問を通じて受講生に意見を求め、双方向の授業展開とする。講義の最後には振り返りの時間を設け、学びの整理をする。毎回テーマを設け、課題解決学修を行う。講義内容に応じて、学校の現状や授業の様子を実際に撮影した映像(DVD)を示しながら説明する

■予習・復習

- ・予習として、ブラックボードシステムに示した教材に事前に確認しておく。
- ・復習として、授業で示した課題を整理し、自分の考えをまとめ提出する。

■成績評価の方法(成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い)

提出された課題の内容から授業への取り組みを評価する。論述を含めた試験を行い到達度を評価する、試験60%。学修への取組状況(課題の達成状況等)40%

■教科書・参考書

参考書：文部科学省「高等学校学習指導要領解説 - 情報編 -」。各回とも作成資料を配布し、指示する。

■関連する科目

「教育方法」「各教科教育法」「教育実習(事前・事後指導)」及び「教育実習I」の履修につなげていく。

■当該科目の実務経験(該当する場合のみ記載)

担当教員は、東京都公立高等学校に37年間勤務(管理職を含む)し、進路指導・生活指導・学校改革・研究活動に関する分野に研究実績を積んできており、それを本科目の指導に生かしていく。